

Ken Okuyama Cars F61H水素燃料自動車プロジェクト日本先行レビュー

Ken Okuyama Cars (本社: 山形県/代表: 奥山清行) はワンオフカー F61H Birdcage (エフ61エイチ バードケージ) の日本先行レビューを2025年9月1日、袖ヶ浦フォレストレースウェイにて開催しました。これはKen Okuyama Carsが、これまで進めてきた水素燃料自動車プロジェクト、はじめてのお披露目となるもので、サーキットにおけるデモ走行も行いました。12月にはコラボレーション企業FAST (Future Automotive Solutions and Technologies) と共に、ワールドプレミアを行う予定となっており、今回はそれに先駆けたレビューとなります。

F61H Birdcage はKen Okuyama Carsがこれまで進めてきた、公道走行可能な水素燃料エンジン搭載のハイパフォーマンス・スポーツカー・プロジェクトの具現化であり、このカテゴリーでは世界初のものとなります。ガソリン燃料自動車と同様の内燃機関を利用し、走行時に二酸化炭素を排出しないサステナビリティに拘ったこのプロジェクトは、スポーツカーに新たな未来を与えてくれるものです。



バッテリーや関連デバイスの実質的な寿命に対する懸念から、販売が伸び悩んでおり、クラシックカーとしての価値にも懐疑的な意見のあるBEVに対して、水素燃料エンジンは既存のガソリンエンジンをベースとした内燃機関に新たな生命を宿すことが可能となります。

F61H Birdcageは Ken Okuyama Carsの最新ワンオフモデル、Kode61 Birdcageをベースに開発されました。当モデルはV型12気筒ガソリン エンジンをフロントに搭載する2シーターバルケッタボディを持つスポーツカーです。コンコルソ・デレガンツァ・ヴィラ・デステ、ペブルビーチコンクールデレガンスにもノミネートされ、既に顧客へのデリバリーが進んでいます。

F61Hは圧縮水素を燃料とし、12気筒独立電子制御水素燃料噴射システムを採用した水素燃料自動車です。イタリア製V型12気筒ガソリンエンジンをベースとしてパートナー企業の株式会社FLAT FIELDと共に、開発を進めたもので、ガソリンエンジンにも劣らないパフォーマンスとエグゾーストノートを含む、官能的なサウンドを楽しめます。トランスアクスルレイアウトの6速マニュアルトランスミッションが採用され、リアに水素燃料タンクが装着されています。また、現在の標準的な水素ステーションにて水素燃料の充填が可能です。

Ken Okuyama Carsでは、今回の水素自動車開発協業会社であり水素燃料に関しての研究を重ねている株式会社FLAT FIELDとともに、今後もさらに進化した水素自動車を開発していきます。

*FAST - 自動車の水素化プロジェクトを世界規模で進めるドバイをベースとする投資会社

*株式会社FLAT FIELD - 環境対策をベースとして、水素エンジンを始めとして多様なエネルギーソースの活用を進めるエンジニアリング開発会社

[Related sites]

Official Site <https://www.kenokuyamadesign.com/>

F61H Special Site: <https://www.kenokuyamadesign.com/oneoff/press/F61H/>

[Down Load Link]



F61H Special Site およびダウンロードリンクは9月3日以降、順次更新予定です。

コンタクト

Ken Okuyama Cars

Mail address: cars@kenokuyama.com TEL: +81 3 6447 5250

(Miho Hoshimoto /Advertising cooperation : EKKO PROJECT)